

科目名	指揮法Ⅱ	授業期間	秋学期
担当教員	加納明洋	科目 No.	GEN2281 MCO2281
受講対象	指揮を除く全専攻 2・3年	単位数	2単位

目 標 ／ 概 要	<p>目標：指揮の基本的なテクニックを理解した上で、作品の様々な音楽的要求に応じて使い分けられる実践的技術を身につける。さらに吹奏楽の作品についても取り上げる。</p> <p>概要：将来、現場に出て狼狽することがないように、できるだけ実践的な授業を心掛ける。即ち、受講生の前で指揮する機会を多く設け、音楽の先頭に立つ者の心構えを養ってもらう。従って、授業形態は集団での実践的な実技指導が中心である。</p>
-----------------	---

授 業 計 画	1	当授業の目的、担当者の考え方を学生に説明後、基本運動の打法、しゃくい、平均運動などを復習する。その後、以下の主題について作文を書いてもらう。 1. この授業を選択した理由。 2. 指揮をする者は曲を知らなければならない。では指揮者にとって曲を知るとはどのようなことなのか。 (Mozart : Piano sonata C-Dur KV 545 第1楽章 提示部、第2楽章 前半、合唱版コンコーネより)
	2	打法、しゃくい、平均運動、跳ね上げ、予備運動、拍子に伴う図形の方向等の基本テクニックの確認。 (前掲の曲、ムソルグスキー・ラヴェル編 展覧会の絵より「プロムナード」)
	3	遅い複合拍子の指揮法。変拍子の指揮の解説 (ムソルグスキー・ラベル編 展覧会の絵より「古城」、伊福部昭 「ゴジラ」よりゴジラのテーマ)
	4	遅い複合拍子の指揮法。変拍子の指揮の実践 (ムソルグスキー・ラベル編 展覧会の絵より「古城」、伊福部昭 「ゴジラ」よりゴジラのテーマ)
	5	吹奏楽について、まずは移調楽器の読み方を知り、そして指揮してみよう。(前半パート) (スーザ 「マンハッタン・ビーチ」、伊福部昭 「ゴジラ」)
	6	吹奏楽について、まずは移調楽器の読み方を知り、そして指揮してみよう。(後半パート) (スーザ 「マンハッタン・ビーチ」、伊福部昭 「ゴジラ」)
	7	フィンランディアを取り上げる。曲の概要を説明し、冒頭の指揮法を実践的に学ぶ。(冒頭から95まで) (シベリウス 「フィンランディア」、合唱曲 「フィンランディア賛歌」)
	8	フィンランディア (冒頭から95まで) 前回の復習。(2拍子から4拍子へ・拍子の変わり方の研究)
	9	フィンランディア (96から132まで) 前回の復習。
	10	フィンランディア (132から179まで) 前回の復習。(2拍子の指揮から4拍子の指揮の実践)
	11	フィンランディア (179から最後まで) 前回の復習。
	12	フィンランディア (全曲) (フィンランディア賛歌付き) (合唱を含んだ指揮)
	13	フィンランディアのテンポの変わり目等の復習 (2拍子の指揮から4拍子の指揮を練習する)
	14	フィンランディアのテンポの変わり目等の復習 (2拍子の指揮から4拍子の指揮をマスターする)
	15	フィンランディアの総まとめ

準備学習の内容	楽譜の譜読み。					
履修上の注意	音楽を楽しみ、そして究めようとする積極性と自立心を持ち、それを保てる学生のみ履修を認める。指揮法Ⅰ修得済みの学生に限る。					
評価方法	試験	課題(レポート含)	発表	平常点	その他	合計
	60%			30%	10%	100%
	補足	実技試験及び出席点を柱とし、授業への積極性や貢献度も反映させる。試験は2台のピアノによる実技試験であり、学科試験期間中に実施。課題曲「フィンランディア」				
教材等	シベリウス作曲「フィンランディア」のスコアを各自用意。他の楽譜は担当教官が適宜に配付する。指揮棒は第1回から用意すること。					